

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03374

研究課題名(和文) 富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study of the Lotus Sutra Mandala in the Collection of Honpoji Temple, Toyama

研究代表者

原口 志津子 (HARAGUCHI, Shizuko)

奈良大学・文学部・教授

研究者番号：40208666

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,500,000円

研究成果の概要(和文)：本法寺本の高精細画像撮影と画像合成による原寸大複製の出力を行った。その結果、スケール感を共有しつつ、細かな図像を検討でき、本作のもつ豊かな画像情報の学際的研究が行われた。大原嘉豊、小林知美、五月女晴恵、須藤弘敏、原口志津子、平澤キャロラインらの美術史研究者がそれぞれの視点からの研究成果をあげたほか、日本画実作の経験をもつ荒井経と鷹野佳世子により、制作過程、補筆・補彩の問題が考察されたことは極めて重要である。小林直樹、本井牧子、渡辺麻里子ら説話文学研究者との連携は実り豊かな成果をあげたほか、韓国の姜素妍とイギリスのLucia Dolceを招聘し、多岐にわたる視点からの研究推進が行われた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

重要文化財の富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」は各幅が大幅である上に22幅1具という大規模な作例である。しかも経文や法華経注釈書に基づく場面ばかりではない。仏伝、説話に基づく図像も含む。美術史研究のみならず、説話文学研究、寺院史研究、宗教史研究、民具研究、風俗史研究、ジェンダー研究等さまざまな観点から学際的に考究されるべき作品である。本研究における学際的研究は、特に美術史研究と説話文学研究に大きな意義を有する。

さらに、高精細画像撮影と原寸大複製全幅作成により、奈良大学博物館展示「富山市・長松山本法寺蔵 法華経曼荼羅図の世界 描かれたくらし」のような社会への成果還元も行いうるようになった。

研究成果の概要(英文)：High-resolution images of Honpo-ji version were photographed and full-scale reproductions of this work were output by image synthesis. As a result, we were able to share a sense of scale while examining detailed images. Finally, an interdisciplinary study of the work's rich image information was conducted.

Art historians such as Yoshitoyo Oohara, Tomomi Kobayashi, Harue Sotome, Hirotooshi Sudo, Shizuko Haraguchi, and Caroline Hirasawa have made achievements in their various fields of art history. In addition to the results of the research, Kei Arai and Kayoko Karino, who have experience in Japanese painting, also have achieved from the process of production and the issues of supplementary writing and coloring. The collaboration with researchers of narrative literature such as Naoki Kobayashi, Makiko Motoi and Mariko Watanabe has been fruitful. At the same time, Soyon Kang from Korea and Lucia Dolce from the UK were invited to conduct research from a variety of perspectives.

研究分野：美術史

キーワード：法華経 説話画 注釈 仏教説話 複製 談義 展示

1. 研究開始当初の背景

研究申請者は、26年間、富山県立大学に勤務し、富山市八尾町・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」(以下、本作)の研究を継続してきた。本作は鎌倉時代末期制作で、重要文化財に指定されているものの、縦幅約190cm、横幅約130cmの巨幅であり、なおかつ22幅あるため、画像資料が整備されていない状況では研究が困難であった。申請者は本作所蔵の地元に住居し継続的に調査研究を行うことによって、伝来や画像の内容から律宗の関与を示唆するなど一定の成果をあげた。2014年に提出した学位論文[博士(文学)・京都大学(論文博第607号)2014年3月25日]およびその出版物である『富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の研究』(法蔵館、2016年2月29日、2015年研究成果公開促進費(学術図書)15HP5011)がその成果である。

この時期、仏教説話研究者の本井牧子、小峯和明らが本作に関心を抱き、仏教説話研究の分野から成果をあげつつあった。しかし、本作は巨大な掛幅にもかかわらず、それぞれのモチーフは絵巻物サイズに細かく描かれており、判別が困難であった。申請者が出版した書籍も、富山県教育委員会提供の全図をA5版に掲載できたのみであり、描かれたモチーフを細かく検討し、図像解釈を行えるほどの精度はなかった。

また、本作には大規模な修復が少なくとも3度(明応6年、寛文12年、昭和41年、それぞれ完成年)施されており、補筆補彩という物理的な問題があった。図像解釈を行うためのテキスト批判に耐えうるだけの精密な調査は行われていなかった。

2. 研究の目的

高精細画像資料の整備を行うことと、学際的研究である。

本作は各幅が大幅である上に22幅で1具という大規模な作例であり、1幅あたりの場面数が多く、しかも経文や法華経注釈書に基づく場面ばかりではない。仏伝、説話に基づく図像も含む。また、庶民生活を描く場面では、湯屋や製薬、製油の器物等の画像情報が豊富である。美術史研究のみならず、説話文学研究、寺院史研究、宗教史研究、民具研究、風俗史研究、ジェンダー研究等さまざまな観点から学際的に考究されるべき作品である。

そのためには、図像解釈の前提となる画面の物質的正当性を確認し、高精細画像資料の整備を行う必要があった。

3. 研究の方法

本作を所蔵する長松山本法寺の協力のもと、以下の研究者を組織し、学際的調査研究を実施した。

説話文学研究者(小林直樹、本井牧子)、寺院史宗教史研究者(原田正俊)、文化財保存科学研究者(荒井経)、美術史研究者(大原嘉豊、鴈野佳世子、小林知美、五月女晴恵、須藤弘敏、原口志津子、平澤キャロライン)である。

スケジュールは以下である。

2016年8月6日および23日～25日 富山市八尾町・長松山本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の可視光高精細画像全図および20分割画像、赤外線画像20分割画像を撮影した。まず、射水市新湊博物館に出展中の3幅を撮影、本法寺では博物館と同条件に設定して、19幅を撮影した。撮影はニッシャエフエイト・橋本禎郎が担当した。この撮影には、京都国立博物館列品管理室アソシエイトフェロー・池田素子が参加し、顔料、保存の研究についてのアドバイスを行った。

同年9月9日、奈良国立博物館において、観音正寺旧蔵「法華経曼荼羅図」の特別観覧の許可を得て実地調査、翌日10日にはキャンパスプラザ京都において、研究会を行った。同年11月21日、上智大学の平澤キャロラインが主宰するICC Research unit “Materialities of the Sacred”のために、原口が発表を行った。

2017年度～2019年度は、画像のレンズ収差を修整し20枚を接合する作業が行われた。合成画像は、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復日本画研究室において出力試作を行い、原寸大出力2枚継ぎ複製が作成された。

その成果は、科研費基盤研究(B)「中近世絵画における古典の変成と再結晶化 話型と図様」(研究代表者・佐野みどり)との共催で、2018年3月3日に合成画像の観覧と「仏教美術研究の作品と史料」合同研究会という形で披露された。同日、連携研究者の須藤弘敏(弘前大学)が発表を行った。

2018年12月25日には、荒井経および同研究室助手・向井大祐らの協力のもと、東京藝術大学陳列館2階において本作原寸大複製22幅全幅を展示し、同時に、弘前大学人文社会科学部・渡辺麻里子による講演と大原嘉豊による研究報告が行われた。

2019年は、京都府立大学稲森会館において、9月14日・15日にわたる国際シンポジウムが行われた。発表者には科研メンバー(原口、鴈野、小林、五月女、本井)のほか、渡辺麻里子、韓国の姜素妍、イギリスのLucia Dolceを招聘した。

2020年には、奈良大学博物館において、2月28日から5月16日までの間、原寸大複製十一幅分が展示された(ただし、緊急事態宣言をうけて4月8日から閉館。後10月31日まで開館延長)。この展示にあわせて、画中の風俗、石造物、民具等に焦点を当てた図録「富山市・長松山本法寺蔵 法華経曼荼羅図の世界 描かれたくらし」が作成された。

4. 研究成果

主な研究成果は別記するが、本作の高精細画像の撮影と画像合成による原寸大複製の出力により、スケール感を共有しつつ、細かな図像を学際的に検討できたことは大きい。

研究会やシンポジウムにおいて、日本画実作の経験をもつ荒井経と鴈野佳世子により、実際の制作過程、補筆・補彩の問題が検討、考察されたことは貴重である。

また、小林直樹、本井牧子、渡辺麻里子ら説話文学研究者との連携において、それぞれに貴重な提言が行われた。韓国における普門観音信仰とその図像化、英語圏発表者による日蓮宗法華曼荼羅における図像創成の問題など、多岐にわたる視点からの研究発表が行われたことも重要である。

文献史学の分野との連携は、原田正俊、射水市新湊博物館の松山充宏、奈良大学の外岡慎一郎らの文献史学研究者によって伝来の問題が掘り下げられ進展する筈であったが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から 2020 年 2 月 29 日に予定されていた研究会は中止された。発表できるはずであったこれらの内容も含め、研究成果公刊の道を探っている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 大原嘉豊	4. 巻 41
2. 論文標題 国宝 明恵上人像（樹上坐禅像）を巡る一試論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 字叢	6. 最初と最後の頁 65-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鷹野佳世子	4. 巻 13
2. 論文標題 山梨県立博物館所蔵《法然上人絵伝》修理から得られた技法材料に関する知見	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山梨県立博物館 調査・研究報告	6. 最初と最後の頁 40-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鷹野佳世子	4. 巻 201
2. 論文標題 本物を超える - クローン文化財 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 建築保全センター : Re	6. 最初と最後の頁 42 - 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小林知美	4. 巻 30
2. 論文標題 太宰管内美術史料（稿）4 附【調査概報】宗像大社所蔵の阿弥陀経石木製模刻：阿弥陀経石の受容と展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 筑紫女学園大学人間文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 167 188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小林直樹	4. 巻 10
2. 論文標題 『沙石集』と『宗鏡録』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五月女晴恵	4. 巻 2018 / 2019
2. 論文標題 「土蜘蛛草紙絵巻」の描き手と制作時期について—聖衆来迎寺所蔵「六道絵」との近似性に着目しながら—	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北九州市立大学特別研究推進費助成研究報告書	6. 最初と最後の頁 1-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 10
2. 論文標題 見えない仏 仏像の靈験を語る話型	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 8-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井経	4. 巻 47
2. 論文標題 日本の美術教育における学位と文化財の復元	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 韓国美術研究所：美術史論壇	6. 最初と最後の頁 29-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大原嘉豊	4. 巻 44
2. 論文標題 詫磨派の問題 勝賀を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公益財団法人仏教美術研究上野記念財団研究報告書『研究発表と座談会 平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題』	6. 最初と最後の頁 11 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤弘敏	4. 巻 12
2. 論文標題 加須市徳性寺蔵紺紙金字法華経について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 埼玉県立歴史と民俗の博物館紀要	6. 最初と最後の頁 120-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 16
2. 論文標題 志水文庫蔵『六道変相八大地獄図』の信仰とその淵源	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本仏教総合研究	6. 最初と最後の頁 53-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirasawa Caroline	4. 巻 45
2. 論文標題 The Materiality of a Promise: Interworldly Contracts in Medieval Buddhist Promotional Campaign Imagery	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Religious Studies	6. 最初と最後の頁 341-390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18874/jjrs.45.2.2018.341-390	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hirasawa Caroline, Lomi Benedetta	4. 巻 45
2. 論文標題 Editor's Introduction: Modest Materialities: The Social Lives and Afterlives of Sacred Things in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Religious Studies	6. 最初と最後の頁 217 - 225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18874/jjrs.45.2.2018.217-225	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Editors:Hirasawa Caroline, Lomi Benedetta	4. 巻 45
2. 論文標題 Modest Materialities: The Social Lives and Afterlives of Sacred Things in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Religious Studies	6. 最初と最後の頁 217-452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18874/jjrs.45.2.2018.217-452	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 キャロライン・ヒラサワ	4. 巻 2
2. 論文標題 光の救済 「光明真言功德絵詞 (絵巻)」の成立とその表現をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 小峰和明・出口久徳編 『日本文学の展望を拓く2-絵画・イメージの回廊-』	6. 最初と最後の頁 25-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林直樹	4. 巻 52
2. 論文標題 無住と三学 - 律学から『宗鏡録』に及ぶ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 121-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮廻正明、鴈野佳世子、並木秀俊、麻生弥希、荒殿優花	4. 巻 1
2. 論文標題 クローン文化財の意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 「シルクロード特別企画展 素心伝心 クローン文化財 失われた刻の再生」展覧会図録	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大原嘉豊	4. 巻 650
2. 論文標題 国宝 絹本着色不動明王像(黄不動)〔京都・曼殊院蔵〕修理時に発見された御衣絹加持の痕跡に関して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月刊文化財	6. 最初と最後の頁 30-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鴈野佳世子	4. 巻 98
2. 論文標題 春日厨子絵制作報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 春日	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 208
2. 論文標題 海を渡る仏 『釈迦堂縁起』と『真如堂縁起』との共鳴	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 205-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 86-5
2. 論文標題 『釈迦堂縁起』とその結構	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 276-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口志津子	4. 巻 202
2. 論文標題 長松山本法寺蔵「法華経曼荼羅図」に見る前代からの継承と新奇性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア遊学:日本化する法華経	6. 最初と最後の頁 160-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林直樹	4. 巻 57
2. 論文標題 無住と律(一) 『雑談集』と『四分律行事鈔』・『資持記』の説話	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文学史研究	6. 最初と最後の頁 53-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田正俊	4. 巻 7
2. 論文標題 「七天狗絵」(翻刻・解題)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 中世禅籍叢刊	6. 最初と最後の頁 429-471、641-647
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大原嘉豊・佐々木遼子・六法美術・池田素子・岡田愛	4. 巻 38
2. 論文標題 釈迦金棺出現図科学分析調査報告及び復元模写事業概要	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 京都国立博物館学叢	6. 最初と最後の頁 59-104,4-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 86-5
2. 論文標題 『釈迦堂縁起』とその結構	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 208
2. 論文標題 海を渡る仏 『釈迦堂縁起』と『真如堂縁起』との共鳴	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学：ひと・もの・知の往来	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井経	4. 巻 14
2. 論文標題 文化財復元の現在 福島県飯舘村・山津見神社オオカミ天井絵の事例から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文化資源学	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷹野佳世子	4. 巻 -
2. 論文標題 古典絵画の線描分析とトレース図の利活用に関する試論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京芸術大学社会連携センター紀要bulletin	6. 最初と最後の頁 48-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林知美	4. 巻 27
2. 論文標題 【研究会報告】権熹耕「高麗写経-様式的特徴と思想的背景-」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 筑紫女学園大学人間文化研究年報	6. 最初と最後の頁 283-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計35件（うち招待講演 20件 / うち国際学会 21件）

1. 発表者名 鷹野佳世子
2. 発表標題 本法寺蔵《法華経曼荼羅図》の絵師に関する試論
3. 学会等名 美術史学会東支部1月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒井経
2. 発表標題 (絵画)復元模写 「孔子及び四聖配像」「四季れい毛花卉図巻」
3. 学会等名 模造復元で読み解く琉球の美 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鷹野佳世子
2. 発表標題 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の造形と作画手法について
3. 学会等名 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 姜素妍
2. 発表標題 普門觀音と方便波羅蜜の具現 - 京都知恩院蔵<觀世音菩薩三十二応幀>を中心
3. 学会等名 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林知美
2. 発表標題 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」と法華經見返絵 - 主題と図様の比較から -
3. 学会等名 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本井牧子
2. 発表標題 絵画化されるテキストの位相
3. 学会等名 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五月女晴恵
2. 発表標題 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」に見る中世絵巻的要素 世俗の意匠と法華経絵と
3. 学会等名 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺麻里子
2. 発表標題 龍女成仏 - 談義と物語 -
3. 学会等名 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Lucia Dolce
2. 発表標題 宗教図像における不純化と流動性 法華經曼荼羅について
3. 学会等名 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原口志津子
2. 発表標題 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の補筆補彩に関する問題提起
3. 学会等名 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林知美
2. 発表標題 14世紀前半写経発願文の内容と特徴経曼荼羅と法華経見返絵－主題と図様の比較から－
3. 学会等名 通度寺聖寶博物館佛教美術史學會學術大会（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本井牧子
2. 発表標題 常謹撰『地藏菩薩心驗記』とその展開
3. 学会等名 中国古文献の投影と展開 日本古典文学研究の新地平 中日學術會議（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五月女晴恵
2. 発表標題 金戒光明寺所蔵「依藤太絵巻」の原本について 尾形守房模「藤原秀郷龍宮城図」を手掛かりとして
3. 学会等名 第103回近世美術研究会（於：門司出光美術館）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大原嘉豊
2. 発表標題 本法寺蔵法華経曼荼羅図の様式における若干の問題について
3. 学会等名 富山市八尾町・長松山本法寺蔵「法華経曼荼羅図」原寸大複製全幅展示および研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺麻里子
2. 発表標題 『法華経』の談義と物語
3. 学会等名 富山市八尾町・長松山本法寺蔵「法華経曼荼羅図」 原寸大複製全幅展示および研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Benedetta Lomi, Steven Trenson, David Quinter, Fabio Gygi, and Caroline Hirasawa
2. 発表標題 Modest Materialities: The Social Lives and Afterlives of Sacred Things
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies (EAJS), Lisbon (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 原田正俊
2. 発表標題 禅宗法会の展開と中世儀礼体系の再編
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies, Lisbon (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林知美
2. 発表標題 平安時代の紺紙金字経典の制作工房
3. 学会等名 第29回仏教美術史学会（韓国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大原嘉豊
2. 発表標題 韓国と中国と日本との関係から見た高麗時代の仏教美術
3. 学会等名 韓国国立中央博物館（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大原嘉豊
2. 発表標題 詫磨派の問題－勝賀を中心に－
3. 学会等名 公益財団法人仏教美術研究上野記念財団研究発表と座談会「平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒井経
2. 発表標題 失われた文化財の復元とその意義
3. 学会等名 公開シンポジウム「文化財を伝える - 複製・復元の現在と未来 -」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒井経
2. 発表標題 東京藝術大学保存修復的教育与研究
3. 学会等名 広州美術学院（中国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鷹野佳世子
2. 発表標題 日本絵画の復元における技法材料の重要性
3. 学会等名 ワークショップ「復元研究と技法材料」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒井経
2. 発表標題 東京藝術大学における保存修復の教育と研究
3. 学会等名 高麗大学（韓国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒井経
2. 発表標題 模写・模造の活用と実際
3. 学会等名 東京国立博物館・文化庁：第10回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒井経
2. 発表標題 東京藝術大学蔵「阿弥陀八大菩薩像」の顔料分析 高精度な複製による国際研究の促進に向けて」
3. 学会等名 高麗仏画シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本井牧子
2. 発表標題 『金蔵論』とその構成
3. 学会等名 第四屆佛教文獻與文學國際學術研討會（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 本井牧子
2. 発表標題 志水文庫蔵『六道変相八大地獄図』の信仰とその淵源
3. 学会等名 日本仏教綜合研究学会 第15回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Caroline Hirasawa
2. 発表標題 Opening Remarks on Sacred Materialities Workshop
3. 学会等名 Rites, Rice, and Rokuji Myogo; Sacred Materialities Workshop (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shizuko Haraguchi
2. 発表標題 The Holy Relics of Ananda and the Dragon Girl's Jewel as Depicted in the Honpo-ji Lotus Sutra Mandala
3. 学会等名 ICC, Materialities of the Sacred (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 原口志津子
2. 発表標題 長松山本法寺蔵「法華經曼荼羅図」と「二河白道図」
3. 学会等名 日本宗教文化史学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 原口志津子・奈良大学博物館編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 共同精版出版	5. 総ページ数 16
3. 書名 富山市・長松山本法寺蔵 法華經曼荼羅図の世界 描かれたくらし	

1. 著者名 京都国立博物館複製監修・大原嘉豊解説	4. 発行年 2017年
2. 出版社 同朋舎新社	5. 総ページ数 39
3. 書名 国宝 山水屏風（京都国立博物館蔵） 解題	

1. 著者名 大原嘉豊編集・解説	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都国立博物館	5. 総ページ数 24
3. 書名 (仏教美術研究上野記念財団研究報告書)	

1. 著者名 水野宏美、長谷川路可、荒井経ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 サンパウロ	5. 総ページ数 147
3. 書名 長谷川路可: フレスコ、モザイクのパイオニア	

1. 著者名 共著: 大久保 良峻、吉田 一彦、上島 享、蓑輪 顕量、菊地 大樹、原田 正俊、曾根原 理、林 淳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 384
3. 書名 日本仏教の展開	

1. 著者名 佛教史学会 分担執筆: 大原嘉豊	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 400
3. 書名 仏教史研究ハンドブック	

1. 著者名 小林直樹 (神戸女子大学古典芸能研究センター編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 384
3. 書名 説経 人は神仏に何を託そうとするのか	

1. 著者名 原田正俊編著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 245
3. 書名 宗教と儀礼の東アジア 交錯する儒教・仏教・道教	

1. 著者名 原田正俊	4. 発行年 2016年
2. 出版社 南禅寺	5. 総ページ数 101
3. 書名 鎌倉時代の南禅寺と一山一寧	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒井 経 (ARAI Kei) (60361739)	東京藝術大学・大学院美術研究科・教授 (12606)	
研究分担者	大原 嘉豊 (OOHARA Yoshitoyo) (90324699)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部保存修理指導室・室長 (84301)	
研究分担者	鷹野 佳世子 (KARINO Kayoko) (40570065)	東京大学・史料編纂所・RPD (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 知美 (KOBAYASHI Tomomi) (00263989)	筑紫女学園大学・文学部・准教授 (37117)	
研究分担者	小林 直樹 (KOBAYASHI Naoki) (40234835)	大阪市立大学・大学院文学研究科・教授 (24402)	
研究分担者	五月女 晴恵 (SOUTOME Harue) (50401154)	北九州市立大学・文学部・准教授 (27101)	
研究分担者	本井 牧子 (MOTOI Makiko) (00410978)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	2018年4月1日筑波大学より移籍
連携研究者	須藤 弘敏 (SUDO Hirotoshi) (70124592)	弘前大学・人文学部・教授 (11101)	2019年3月末日定年
連携研究者	平澤 キャロライン (HIRASAWA Caroline) (10535454)	早稲田大学・国際教養学部・准教授 (32689)	2018年4月1日上智大学国際教養学部より移籍
連携研究者	原田 正俊 (HARADA Masatoshi) (40278883)	関西大学・文学部・教授 (34416)	